

再評価調書（再々評価）

事業名	堺泉北港泉北6区緑地整備事業				
所在地	泉大津市小津島町・高石市南高砂				
再々評価理由	再評価（見直し）後5年を経過した時点で継続中				
事業概要	目的	海辺において府民が自然に親しみ、憩える水際空間を形成するとともに、人や生物にとって良好な海辺環境を創出する。			
	内容	緑地面積 90,000 m ² （緑地部 70,000 m ² 、緑道部 20,000 m ² ） 野鳥園、散策の森、緑道			
	事業費	全体事業費：約 15.2 億円（約 17.0 億円）うち投資済事業費：約 11.7 億円（約 9.0 億円） （内訳）用地費約 - 億円（約 - 億円）（内訳）用地費約 - 億円（約 - 億円） 工事費約 15.2 億円（約 17.0 億円） 工事費約 11.7 億円（約 9.0 億円） （ ）内の数値は再評価（見直し）時点のもの			
		【再評価（見直し）時点の事業費との変動理由】 竣工による緑道部分の事業費の確定			
	維持管理費	5,000 千円 / 年			
	上位計画	大阪府営港湾長期構想（愛称「あすぽーと21」 平成 17 年 6 月策定） 堺泉北港港湾計画（平成 18 年 2 月改定） 大阪府都市基盤整備中期計画（案）改定版（平成 17 年 3 月改定）			
	関連事業	おづの小径整備事業（事業完了） 小松緑道整備事業・中央公園整備事業（事業完了）			
事業の進捗状況	経過	計画時の想定	再評価（見直し）時点	現時点	分析 【完成予定の変更理由】
		事業採択年度 H4 事業着手年度 H4 完成予定年度 H22	事業採択年度 H4 事業着手年度 H4 完成予定年度 H22	事業採択年度 H4 事業着手年度 H4 完成予定年度 H26	行財政計画の見直しにより、事業費配分を見直したため
	進捗状況		（平成 13 年度末） 用地： - % 工事： 53%	（平成 18 年度末） 用地： - % 工事： 77%	
	途中段階の整備効果発現状況	緑道部(20,000 m ²)は、H15 から供用を開始している。			
	事業進捗に関する課題	特になし			

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	計画時の想定	再評価（見直し）時点での状況	現時点での状況	分析
		<p>これまで港湾の開発に伴って、干潟や浅場が失われ、生物の生息・生産の場としての水辺空間の機能が損なわれたため、その機能回復を図る必要が生じている。 埋立免許では環境保全の重要性に鑑み、埋立の規模に応じた公園・緑地及び広場を確保することとなっている。 環境保全に対する府民の意識の高まりに適切に対応し、港湾の環境の充実を図る必要がある。</p>	<p>計画時点と変化なし</p> <p>計画時点と変化なし</p> <p>緑地部にはシギやチドリなど水鳥が飛来し、貴重な生息地となっており、日本野鳥の会等野鳥保護団体より海辺の特性を活かした「水鳥の憩える野鳥園」を整備するよう要望が出ている。 この地区には、埠頭の整備の進捗に伴い、12社の企業が進出し、多くの就業者が存在する。</p>	<p>再評価（見直し）時点と変化なし</p> <p>再評価（見直し）時点と変化なし</p> <p>再評価（見直し）時点と変化なし</p> <p>現在、13社の企業が進出している。</p>	<p>順調に企業進出が進んでいる。</p>
地元等の協力体制		計画時の想定	再評価（見直し）時点での状況	現時点での状況	分析
		<p>大阪府に公有水面埋立免許の出願がされた際、地元泉大津市、高石市をはじめ関係機関に対して意見を徴し、同意を得ている。（泉大津市・高石市については、市議会に諮った。）</p>	<p>計画時点と変化なし</p> <p>既設緑地の維持管理を地元市が行っている。</p>	<p>再評価（見直し）時点と変化なし</p> <p>再評価（見直し）時点と変化なし</p>	

		計画時の想定		再評価（見直し）時点での状況	現時点での状況（変更点）	分析
			備考			
事業効果の定量的分析	費用便益分析	計画時点では費用便益分析の手法が確立されていないため算出できない		<ul style="list-style-type: none"> ・ B / C = 4.48 便益総額 B = 119.1 億円 総費用 C = 26.6 億円 「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル」平成 11 年 5 月 運輸省港湾局により算出 ・ 交流レクリエーション便益（港湾来訪者の交流機会の増加） ・ 環境便益（港湾就労者の就労環境の改善、港湾旅客の利用環境の改善、港湾周辺地域環境の改善、生態系及び自然環境の保全・向上） ・ 残存価値（緑地の土地価格） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ B / C = 2.54 便益総額 B = 97.7 億円 総費用 C = 38.4 億円 「港湾整備事業の費用対効果分析マニュアル」平成 16 年 6 月 国土交通省港湾局により算出 再評価（見直し）時点と変わらず 	
	その他の指標（代替指標）					
事業効果の定性的分析	安全・安心	歩行者等と車を分離して、歩行者の安全を確保するとともに、散策やジョギングが快適に行える。港湾内の諸活動によって生じる粉塵や騒音等の防除又は緩和を図る。港湾内就業者の休息場所を提供することで、職場環境の改善を図る。		計画時点と変わらず	計画時点と変わらず	
	活力	日常的に海に触れ合い親しむことができ、レクリエーション活動等地域の賑わいの源となる。野鳥や水生生物等の観察ができる水辺が身近となり、学習・体験できるようになる。		計画時点と変わらず	計画時点と変わらず	
	快適性	積極的な緑化を進め、港湾施設のもつ威圧感を緩和し、潤いのある空間を形成する。		計画時点と変わらず	計画時点と変わらず	
	その他	港湾の開発により失われた水辺環境を創造し、野鳥や水生生物等の生息できる場を提供する。		計画時点と変わらず	計画時点と変わらず	
自然環境等への影響と対策	本事業地は、過去に埋立工事の途中段階で形成された人工的な干潟に、多種・多様な野鳥が飛来していた。事業実施にあたっては、現状の自然環境に配慮することはもちろん、積極的に干潟や緑地を整備することによる、自然環境の回復・向上を図り、水生生物や野鳥の生息の場としての水辺空間を提供していく。		埋立完了後 10 年が経過しているが、コアジサシやチドリなどの飛来がある状況である。計画時点と変わらず	再評価（見直し）時点と変わらず 計画時点と変わらず		
その他特記すべき事項	<p>前回再評価時の意見具申・府の対応方針の概要</p> <p>（意見具申） (H13)事業見直し (H14)事業見直し案を承認</p> <p>次の理由により、見直し案を承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民が計画づくりに参加できるワークショップを実施するなど、地元関係者との協議・意見交換を行いながら、社会経済情勢等の変化を踏まえて、都市公園的な緑地から自然系の緑地へと緑地タイプを見直し、その結果として建設費の縮減を行うとともに、地元市や市民の協力のもと将来の維持管理費縮減の工夫を行っている。 ・ 当面は緑地基盤の整備のみを行い、その後、ワークショップ開催により施設内容、整備手法を検討し、施設の利用状況、自然の回復状況、地区の熟成度を踏まえながら実施していくという段階的な整備を考慮した手法がとられている。 <p>（府の対応方針） (H13)事業見直し (H14)事業見直し案に基づき事業継続</p>	今回評価時点の反映状況	<p>ワークショップの開催を通じて、管理、利用の面においても府民、NPOとの協働に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続してワークショップを実施し、地元関係者との協議・意見交換を行いながら、事業を行っている。 ・ ワークショップにおいて検討した整備計画に基づき、緑地基盤の整備を進めている。 			